

野菜の需給・価格動向レポート(平成31年2月25日版)

1 主要野菜の生産出荷状況

※・レポートの読み方については、注意書きを参照してください

種類	1月の価格情報				2月の価格情報		2月上旬の関東及び近畿ブロックの入荷量()内は、本年と過去3カ年平均値との比率	3月の主産地	生育及び価格の3月上旬までの見通し	「図の見方」 平均価格 現時点の価格水準		
	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック別平均販売価格			(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	2月上旬						
		上旬	中旬	下旬								
葉茎菜類	キャベツ	96.86	82	91	96	96.86	91	・7.644t (90%)	愛知(68)、千葉(18)	↑	千葉産は、最近の降雨や気温の上昇に伴い肥大が進んだことから、現在の出荷は平年を上回るものの、昨年11月以降は気温が平年を上回り生育が進んだ影響で残量が減少していることから、今後は平年並みの出荷の見込み。愛知産は、最近の降雨や気温の上昇に伴い肥大が進んだことに加え、台風24号後に再定植した物の出荷が始まっていることから、引き続き平年を上回る出荷の見込み。	
		92.10	74	82	87	92.10	79	・2.494t (79%)	愛知(57)、大阪(15)			2月に入り出荷量が増加し徐々に値を下げて現在平均を下回る価格は、愛知産の出荷が平年を上回るものの、引き続き平均を下回って推移する見込み。
	たまねぎ	82.13	119	126	135	82.13	136	・5.991t (70%)	北海道(75)	→	北海道産は、貯蔵ものの計画的な出荷となっている中で、傷みが発生したことにより商品化率が低下したことから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。 北海道産の出荷が平年を下回ると見込まれることから、現在平均を上回る価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。	
		82.13	115	129	131	82.13	135	・2.121t (59%)	北海道(68)			
	ねぎ (関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ)	265.64	304	249	216	265.64	264	・1.700t (82%)	千葉(45)、埼玉(23)	→	千葉産は、最近の降雨や気温の上昇に伴い生育が進み太物傾向となっていることから、引き続き平年を上回る出荷の見込み。埼玉産は、12月下旬以降の少雨の影響で生育が遅延して細物傾向となっていることから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。 埼玉産の出荷が平年を下回ると見込まれるものの、千葉産の出荷が平年を上回ると見込まれることから、現在平均並みの価格は、引き続き平均並みで推移する見込み。	
		473.04	432	353	322	473.04	329	・167t (106%)	徳島(28)、三重(18)、香川(18)			
	はくさい	64.18	39	37	36	64.18	39	・4.931t (91%)	茨城(45)、兵庫(28)	→	茨城産及び兵庫産は、最近の降雨や気温の上昇に伴い肥大が進んだことから、引き続き平年を上回る出荷の見込み。 茨城産及び兵庫産の出荷が平年を上回ると見込まれることから、現在平均を下回る価格は、引き続き平均を下回って推移する見込み。	
		68.70	52	43	44	68.70	49	・1.974t (87%)	長崎(61)、熊本(9)			
	ほうれんそう	372.27	567	527	477	372.27	481	・854t (90%)	茨城(37)、群馬(26)、埼玉(15)	→	茨城産、群馬産及び埼玉産は、12月下旬以降の少雨や冷え込みの影響により生育が停滞していたものの、最近の降雨や気温の上昇に伴い生育は回復していることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 2月に入り出荷量が増加し徐々に値を下げて現在平均並みの価格は、茨城産、群馬産及び埼玉産の出荷が平年並みと見込まれることから、引き続き平均並みで推移する見込み。	
		394.15	453	478	470	394.15	471	・352t (112%)	徳島(43)、福岡(35)			
	レタス (結球)	245.96	220	228	199	245.96	193	・2.660t (98%)	茨城(36)、静岡(25)、香川(10)	→	静岡産は、最近の降雨や気温の上昇に伴い肥大が進んだことから、現在の出荷は平年を上回っているものの、昨年11月以降は気温が平年を上回り生育が進んだ影響で残量が減少していることから、今後は平年並みの出荷の見込み。茨城産及び香川産は、最近の降雨や気温の上昇に伴い肥大が進んだことから、引き続き平年を上回る出荷の見込み。 静岡産の出荷が平年並みと見込まれるものの、茨城産及び香川産の出荷が平年を上回ると見込まれることから、現在平均を下回る価格は、引き続き平均を下回って推移する見込み。	
		244.82	219	218	183	244.82	180	・799t (105%)	兵庫(31)、茨城(21)、徳島(19)			
果菜類	きゅうり	379.15	470	405	396	379.15	355	・2.543t (89%)	群馬(26)、宮崎(19)、埼玉(16)、	→	群馬産、宮崎産及び埼玉産は、順調な生育であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 12月下旬から出荷量が増加し徐々に値を下げて現在平均並みの価格は、群馬産、宮崎産及び埼玉産の出荷が平年並みと見込まれることから、引き続き平均並みで推移する見込み。	
		358.27	448	381	376	358.27	339	・987t (93%)	宮崎(33)、佐賀(17)、高知(17)			
	トマト (大玉)	383.22	256	271	288	383.22	304	・2.689t (93%)	熊本(33)、栃木(25)、愛知(11)	→	熊本産は、順調な生育であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。栃木産及び愛知産は、天候に恵まれて着果状況も良く肥大も進んでいることから、現在の出荷は平年を上回っているものの、成り疲れの影響がでてくることから、今後は平年並みの出荷の見込み。 熊本産、栃木産及び愛知産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平均を下回る価格は、今後は平均並みで推移する見込み。	
		348.99	250	267	282	348.99	293	・999t (96%)	熊本(67)			
	なす	417.24	366	392	442	417.24	454	・608t (77%)	高知(80)	→	高知産は、順調な生育であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 高知産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平均並みの価格は、引き続き平均並みで推移する見込み。	
		390.96	347	378	419	390.96	436	・261t (81%)	高知(37)、福岡(22)、熊本(22)			
	ピーマン	578.80	576	669	704	578.80	691	・624t (110%)	宮崎(36)、茨城(35)	→	宮崎産及び茨城産は、12月上旬中旬に曇天が続いた影響で樹勢が低下している中で、2月以降の曇天で生育が遅延していることから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。 12月中旬から出荷量が減少して徐々に値を上げ現在平均を上回る価格は、宮崎産及び茨城産の出荷が平年を下回ると見込まれることから、引き続き平均を上回って推移する見込み。	
		565.30	554	634	661	565.30	645	・287t (111%)	宮崎(31)、鹿児島(26)、高知(22)			
	根菜類	だいこん	79.03	64	60	63	79.03	85	・4.208t (75%)	神奈川(50)、千葉(47)	→	神奈川産は、最近の降雨や気温の上昇に伴い生育が進み太物傾向となっていることから、現在の出荷は平年を上回るものの、昨年11月以降は気温が平年を上回り生育が進んだ影響で残量が減少していることから、平年並みの出荷の見込み。千葉産は、最近の降雨や気温の上昇に伴い生育が進み太物傾向となっていることから、現在の出荷は平年を上回るものの、昨年の播種時期に雨天の影響で作業が順調でなかったことから、今後は平年並みの出荷の見込み。 2月上旬に一時的に出荷量が減少し値を上げたものの、その後値を下げ現在平均を下回る価格は、神奈川産及び千葉産の出荷が平年並みと見込まれることから、今後は平均並みで推移する見込み。
			80.47	56	48	50	80.47	67	・2.495t (79%)	長崎(38)、鹿児島(29)		
		にんじん	111.16	104	103	87	111.16	85	・3.230t (85%)	千葉(54)、徳島(13)	→	千葉産及び徳島産は、最近の降雨や気温の上昇に伴い生育が進み太物傾向であることから、引き続き平年を上回る出荷の見込み。 千葉産及び徳島産の出荷が平年を上回ると見込まれることから、現在平均を下回る価格は、引き続き平均を下回って推移する見込み。
			109.97	96	94	86	109.97	88	・986t (93%)	鹿児島(78)	→	

注：1 平均価格は、過去6カ年(平成23～28年)の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く)であり、保証基準額の算定の基となる価格であることから、農林水産省で公表している「野菜の生育状況及び価格見通し」における平均価格(平成26～30年)とは異なる。
2 旬別平均販売価格の赤字及び青の背景は平均価格と比較して150%以上のもの、赤字及び赤の背景は保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。
4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアで平成30年実績である。
5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴き取りをもとに機構が作成したもの。
6 関東・近畿ブロック以外の平均販売価格は、機構HPに掲載している(下記URLを参照)。
URL : https://www.aic.go.jp/y-kofu/yagyomu02_000019.html

1 主要野菜の生産出荷状況

※・レポートの読み方については、注意書きを参照してください

種類	1月の価格情報				2月の価格情報		2月上旬の関東及び近畿ブロックの入荷量 ()内は、本年と過去3カ年平均値との比率	3月の主産地	生育及び価格の3月上旬までの見通し
	(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格			(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格			
		上旬	中旬	下旬					
いも類	さといも	240.29	309	281	290	240.29	288	・189t (71%)	埼玉産は、夏場の高温・少雨や9月の曇雨天の影響から小玉傾向であることから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。千葉産は、作付面積が減少している中、病害が発生していることから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。
		219.65	344 (157%)	298 (136%)	280 (127%)	219.65	413 (188%)	・17t (21%)	
	ばれいしょ	103.85	112 (108%)	110 (106%)	109 (105%)	103.85	105 (101%)	・3,281t (88%)	北海道産は、貯蔵ものの計画的な出荷となっている。昨年6月下旬以降の長雨・日照不足や7月中旬以降の高温・少雨の影響により一部が小玉傾向となっていることから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。後続産地の鹿児島産は、天候に恵まれて順調な生育であることから、引き続き平年を上回る出荷の見込み。
		103.85	110 (106%)	107 (103%)	107 (103%)	103.85	102 (98%)	・1,191t (80%)	

注：1 平均価格は、過去6カ年（平成23～28年）の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均（消費税は除く）であり、保証基準額の算定の基となる価格であることから、農林水産省で公表している「野菜の生育状況及び価格見通し」における平年価格（平成26～30年）とは異なる。
 2 旬別平均販売価格の赤字及び青の背景は平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は保証基準額（平均価格の90%）を下回るもの（消費税は除く）であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
 3 単位は円/kg。上段は関東、下段は近畿ブロック。
 4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。（ ）内は入荷シェアで平成30年実績である。
 5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聞き取りをもとに機構が作成したものである。
 6 関東・近畿ブロック以外の平均販売価格は、機構HPに掲載している（下記URLを参照）。
 URL：https://www.alic.go.jp/y-kofu/yagyomu02_000019.html

1 主要野菜の生産出荷状況（特定野菜）

種類	1月の価格情報				2月の価格情報		2月上旬の東京及び大阪市場の入荷量 ()内は、本年と過去3カ年平均値との比率	3月の主産地	生育及び価格の3月上旬までの見通し
	(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	東京都・大阪市場の旬別価格			(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	東京都・大阪市場の旬別価格			
		上旬	中旬	下旬					
洋菜類	ブロッコリー	300.88	389	458 (152%)	441	300.88	431	・819t (131%)	香川産及び熊本産は、12月下旬以降の少雨や冷え込みの影響で生育が停滞していたことから、現在の出荷は平年を下回るものの、最近の降雨や気温の上昇に伴い生育は回復していることから、今後は平年並みの出荷の見込み。愛知産は、12月下旬以降の少雨や冷え込みの影響で生育は停滞していたことから、現在の出荷は平年を下回るものの、最近の降雨や気温の上昇に伴い生育は回復傾向であることに加え、台風24号後に再定植した物の出荷が始まることから、今後は平年並み出荷の見込み。
		318.91	335 (105%)	399 (125%)	412 (129%)	318.91	378 (119%)	・250t (156%)	

注：1 平均価格は、過去5カ年（平成23～28年）の東京都及び大阪市中央卸売市場の価格。
 2 旬別価格は、上段は東京都中央卸売市場、下段は大阪市中央卸売市場であり、単位は円/kgである。
 3 旬別価格の赤字及び青の背景は、平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は平均価格を80%を下回るもの（消費税は除く）であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
 4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。（ ）内は入荷シェアで平成30年実績である。
 5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聞き取りをもとに機構が作成したものである。
 6 関東・近畿ブロック以外の平均販売価格は、機構HPに掲載している（下記URLを参照）。
 URL：https://www.alic.go.jp/y-kofu/yagyomu02_000019.html

●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 斎藤、山田、長島 TEL03-3583-9793、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。
 ◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方は当機構のホームページのトップ画面、メールマガジンから登録してください。
 ★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、http://vegetan.alic.go.jp/vegetable_report.html に掲載しています。
 ※無断転載禁止 ・レポートに記載された情報をご利用になったことにより生じたいかなる損害に関して、当機構は一切の責任を負いません。